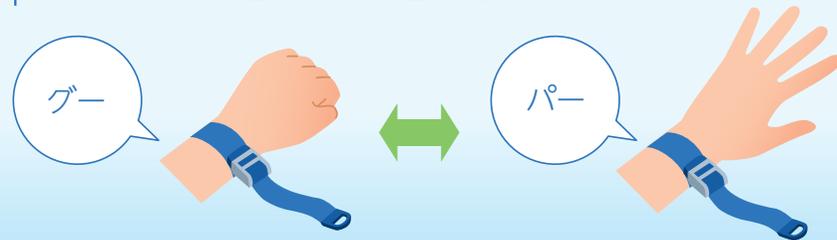


Question & Answer

Q. 駆血帯をしめましたが、血管が浮き出てきません。どうすればいいのでしょうか？

A. 駆血帯をしめても血管が浮き出てこない場合は、手のひらを閉じたり開いたりしましょう。寒いと血管は収縮するので、こすったりして温めると、血管が見えやすくなります。



Q. 注射したとき、血管の外に溶液が漏れたみたいで、痛みがあります。どうすればいいのでしょうか？

A. 血管の外に溶液が漏れると、痛みを感じたり、注射した部位の周囲が膨らんでいきます。そのときは、針を抜いて穿刺部分をアルコール綿で押さえ止血したあと、別の部位*に注射し直しましょう。



*手背だけでなく、肘の内側にも注射できます。

Q. 注射する速度は、どれくらいが目安でしょうか？

A. 薬液は、医師が指示した速度で注入します。目安としては、1~2分かけて注射するようにしましょう。

Self-injection procedure

オルプロリクス® イロクテイト®の 自己注射手順

監修 東京医科大学 臨床検査医学分野 血液凝固異常症遺伝子研究寄附講座 天野 景裕 先生



- 製剤の溶解方法は「オルプロリクス/イロクテイトの溶解方法」を参照してください。
- 操作を行うための適切な場所を確保し、作業場所等の消毒を行ってください。
- 注射する前は手を洗い、清潔にしてください。
- 輸注セットは製剤と別に添付されています。

サノフィ株式会社

〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

サノフィ株式会社

オルプロリクス／イロクテイトの自己注射手順

監修 東京医科大学 臨床検査医学分野 血液凝固異常症遺伝子研究寄附講座 天野 景裕 先生

*製剤の溶解方法は「オルプロリクス／イロクテイトの溶解方法」を参照してください。

1

手背の血管に注射する場合、針を刺す血管の10cmくらい上の部分を駆血帯でしめ、血管を浮き立たせます。



2

注射する部位の皮膚をアルコール綿で消毒します。



3

翼付針の翼部分を親指と人差し指で挟んでもち、針のキャップを外します。注射する部位の皮膚を中指で伸ばし、下記(☆①)の要領で針を血管に刺します。



【注意】針の先には指が触れないようにしましょう。



4

針を少し倒して血管内にさらに進めたら、針を固定するために翼部分を広げて、チューブ内に血液が逆流するのを確認しましょう(☆②)。



【注意】血液の逆流はチューブ内で少し確認できる程度にし、注射筒内まで逆流しないように注意しましょう。



5

駆血帯をゆるめます。



6

注射筒の先端を下に向けてプランジャーロッド(ピストン棒)をゆっくり押し、主治医から指示された速度を目安に薬液を注入します。



7

薬液を注入し終わったら注射筒を机に置いて、アルコール綿を針の上に置いてから針を抜きます。



8

針を抜いたら、血が止まるまでアルコール綿の上から押さえて圧迫し、血が止まったら絆創膏を貼ります。



【注意】注射した部位はしっかりと圧迫して、止血しましょう。

9

注射に使用した器具は、すべて医療廃棄物です。医療機関指定の方法で廃棄してください。

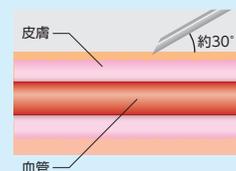


10

自己注射が終了したら、投与記録表に必要な事項(投与日・製剤名・投与量・目的・出血場所・製造番号・投与時の問題点等)を記録してください。



☆血管への針の刺し方



①針の断面を上にし、皮膚との角度を約30°くらいに保ちながら針を刺します。血管に針が入ると、血が逆流します。



②血液の逆流を確認したら、針を少し倒して皮膚と平行になるように進めます。

●自己注射の操作・手技について疑問または不明点がある場合には、医師に相談してください。
●複数の製剤バイアルを組み合わせて使用する場合は、医師の指示に従ってください。